

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等児童デイサービス ソレイユ		公表日		令和8年5月1日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		状況によっては狭く感じる事もあるが、死角がで きにくく目が行き届きやすい部分もある。 長期休暇等、人数が多いと狭く感じる (子どもが大きくなっている) 外出等を行う	人数が多い時はグループに分けて活動をするよう にしている。 子ども達がストレスを感じないように環境を整え ていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		職員の技量によって見る事ができる人数が違うの で配置を考える。	それぞれ職員の技量や経験も違うので、各職員の 質を向上するとともに適切な職員配置をするよう にしている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	子ども達それぞれの障がい特性に応じてはできて いない。が、皆が活動しやすいように考えるよう にしている。	それぞれの障がい特性や性格の児童が利用する中 それぞれの特性にあった環境づくりは難しいと思 う、が、今後もできるだけ子ども達が活動しやす いように工夫していきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		各職員がその都度清潔をたもつように心がけて掃 除できている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	2	個別の部屋ではないが、全体では出来ない時、空 室を利用できるようにしている。	必要に応じて相談室を使うこともある。 主にクールダウン。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		振り返りをし、皆で共有する事を心がけている。 会議時に職員全体で話し合っている。参加できな い職員に対しては、後日説明し、職員全体で業務 改善を行うようにしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		全員会議を設定し、保護者の声に近づくように努 力している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	4	第三者評価は特に行っていないが、役員や行政か らの意見も聞いている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	外部研修にも勤務として参加してもらい、研修費 用も事業所が負担している。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		行っている。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		保護者の希望を極力組み上げるように努力 している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		全員でできている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1	共有はされているが、その都度計画を意識して支 援できていない時もある。子どもによって計画に 沿った支援が行えない場合は計画を変更する。	共有はされているが、支援にズレがあり、統一が 出来ていないと感じる事がある。申し送りの時間 を活用して支援内容確認をするようにする。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	アセスメントを活用するようにしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	1	5領域に沿った支援計画を設定し、それに基づき 支援内容を考えている。	地域支援の機会をもっと増やしていきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		全員で話し合っている。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		個々に意見を出し合っている。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		皆で同じように計画通りすすめるようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		チームで動いている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	ラインを使って共有している。 ラインや次の日に申し送りするようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		連絡帳と業務日誌を必ず記入している。担当者以外の職員も気づいたことがあれば業務日誌に記入している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		行えている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	1	地域交流はできていない。	地域交流の場を増やしていく。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	1	自己表出できる子は少ないが、考えていることを出来るだけ汲み取っていけるように2択とかカードとか方法を考えて行っている。	意思表示が難しい児童でも絵カードやマカトンを使って子ども達の気持ちを表出できるように全体で取り組んでいく。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		担当の職員が対応するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	学校とは情報共有が難しいところもある。 行政や他の事業所等との連携は行っている。	学校によっては動いてくれないところもあるので相談員と連携して、体制を整えていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	3	下校時刻の確認等気を付けているが、急な変更等、保護者の伝え忘れで、こちらが把握できていない事は時々あり、学校から連絡があり迎えに行ったこともある。地域の放デイの会と学校で駐車場などの調整は行っている。	学校によって情報共有が難しいところもある。 学校より行事表を頂いていても、保護者から変更時の連絡がなかったりするので、予定が変わったときは学校側から連絡して頂いたら有難い。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	事前に保護者さんに承諾を頂いて療育園に伺って頂く様子を確認したり、幼稚園で担当者会議を開いて頂いたりしている。	今後も全員は出来なくても、できる範囲内で行っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		他事業所に移行したり、併用を始める児童の情報は移行先の事業所に提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	3	必要な場合は助言、アドバイスを受けている。研修を受ける機会を設けている。非常勤にも研修の機会を設けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	定期的にはできていない。 外出時や職員の子どもの交流はある。	安全性の配慮等、一緒に行う場合の責任の所在等が不明確なので積極的には行っていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		放課後デイの会議には職員が参加している。	全体会には法人から役員が参加している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		連絡ノートを活用している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	研修の案内等のチラシをお渡ししたりしているが、参加が難しい保護者がほとんど。 自立支援協議会や行政からの研修の案内は配布している。	
保	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	1		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		送迎時に話を聞いたり、ラインや連絡帳などで相談に応じている。	

護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	5	保護者が仕事をしているし、特に必要とされていない。	今後、必要とされるなら開催したいと思うが、実際、保護者の会の参加を希望される保護者はいないので、開催予定はない。兄弟同士の交流も年がいろいろで特に必要とされていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		早く対応できている。苦情ではないが、何かあればいつでも連絡頂くように伝えている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		出来ている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4	事業所のボランティア部で子ども食堂を始めている。	現在、人手がなく、地域住民は高齢者も多く招待して出来るような事がない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		消防署と連携して定期的に避難訓練等を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		確認している。	発作時の対応等職員全員ができるようにしていきたい。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		現在一人食物アレルギーを持っているが、特にそれを使う事がないので、除去することを周知しているのみで対応している。	今後、アレルギーのある方がご利用される場合は必要に応じて指示書を頂く。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			ヒヤリハットを管理者に言われる前に自主的に記入するようにする。事故の再発・防止のために少しでもヒヤリとした瞬間があれば記録を残し回覧をする。同じヒヤリがあると常態化して油断してしまうので気を付ける。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	1	全職員に研修を受けてもらうようにしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		以前は拘束が必要になりそうな子どもさんの保護者に事前にそうなるかもしれない旨の説明をしていた。現在は該当する子はいない。	子どもも身体が大きくなってきたり、2次障がいが出てきて抑えが効かなくなる場合もあるので、事前に承諾書を頂いておくようにする。	